

妙義山～(表妙義山縦走)～

【報 告 者】I丸

【日 時】2017年 5月 11日(水) 【天 候】晴れ

【参 加 者】I丸

《コースタイム》

5:30 市営登山者用駐車場 →5:45 妙義神社 → 6:20 大の字→辻 →7:10 見晴台
→7:35 大のぞき →天狗岩 →白雲山 →8:30 相馬岳 →バラ尾根 →9:40 堀切 →10:15
鷹戻し →東岳 →11:30 中ノ岳 →12:15 第四石門 →第三・二・一石門 →12:45 石門
登山口 →13:50 市営駐車場 (11.3km/累積標高 1,521m)

《 報 告 》

日本三大奇勝の一つである妙義山は、以前の職場で、群馬県出身の上司から勧められていた山で、いつの日か登ってみたいと思いつつ早や15年、ANAのマイルが貯まっていたので行く事にした。が、直前に滑落死亡事故があったので、ハーネスを携行して行って本当に良かった。

5時過ぎには駐車場へ到着。連休明けの妙義山は、静かなもので他に登山者は1人。早々に準備して出発する。まず、妙義神社へ行って、安全祈願。登山届を投函して登山開始。晴天だが肌寒くて、絶好の登山日和となった。

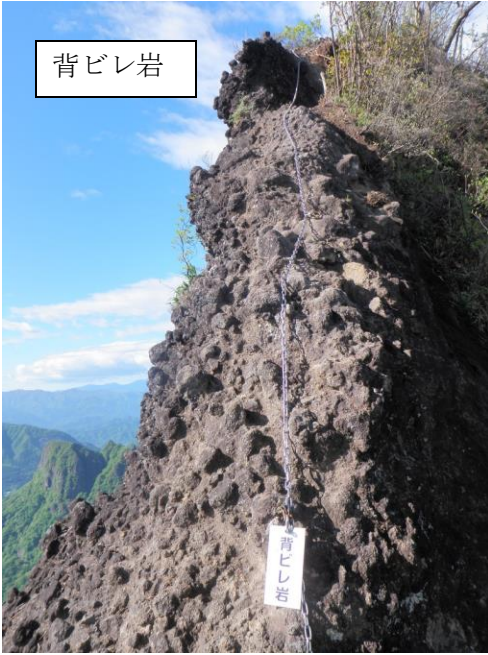
妙義神社から10分、早速に初の鎖場が登場。ここは、全く必要なく終わるが、ここから30カ所以上の鎖場を上り下りする事となる。大の字手前の岩場が垂直だったので、念のためここで、ヘルメット・ハーネスを装着し、シュリングにカラビナを付け、自己ビレイ様にハーネスへ連結させた。鎖で自己ビレイをしながらの登りを練習してみた。ちょっと鎖とカラビナの形状が絡むが、でも、かなり安心感がもてた。

大の字からの展望を満喫し、先を急ぐ。とにかく核

大の字



背ビレ岩



心部は、鷹返しの梯子と鎖場。先日、事故があった場所でもある。辻からは「危険！上級コース」の文言が岩に書いてある。確かに、次々と鎖の岩場が現れる。歩いていても細い尾根で、油断していて蹴躓いたら何処でも滑落しそうな場所である。緊張が続く。

ビビリ岩・背ビレ岩など、高度感たっぷりの岩場が現れるが、自己ビレイを取りながらの登りは、安心感があり怖くは無かった。が、気を緩めないように進んだ。とにかく登山者が居ない！いつもなら、「私1人の山だわっ！」と喜ぶ所だが、こう危険カ所が多いと、目撃者が欲しい。どちら側に落ちて、新緑が多い茂った岩下では、見つけて貰えそうにもない。

天狗岩から相馬岳までは、気持ちいい縦走路になったが、核心部の事が心配でどうもゆとりが持てない。花の時期も終わっていたので、残党のミツバツツジがチラホラである。油断した時に事故は起きる・・と思うと緊張していた。

相馬岳からは、ざれ場下りの急坂で滑って歩きにくいし、鎖場も下りがある。下りでの自己ビレイがカラビナを鎖からなかなか外せなくて、腕が疲れた。場所ごとに鎖の形状が違うので、カラビナの形状との相性が違い苦勞する。

バラ尾根を通り、堀切へ到着。ここがエスケープルートへ行ける最後の分岐になる。「この先鷹戻し付近は、事故多発。上級者でも非常に危険な箇所です・・・」と警察署からの注意書きも掲示されている。しかし、装備も装着しているので行く事にする。

ここから、とにかく気を緩めず慎重に登る。と集中していたので、あまり記憶がない。気付いたら、核心部は終わっていた。比叡山などのクライミングを経験していたので、高度感による恐怖心は無かった。が、誰も見ていないと思うと不安感があり緊張した。

東岳の下りで、前方のこぶ岩の鎖場を下りてくる8人のグループが居





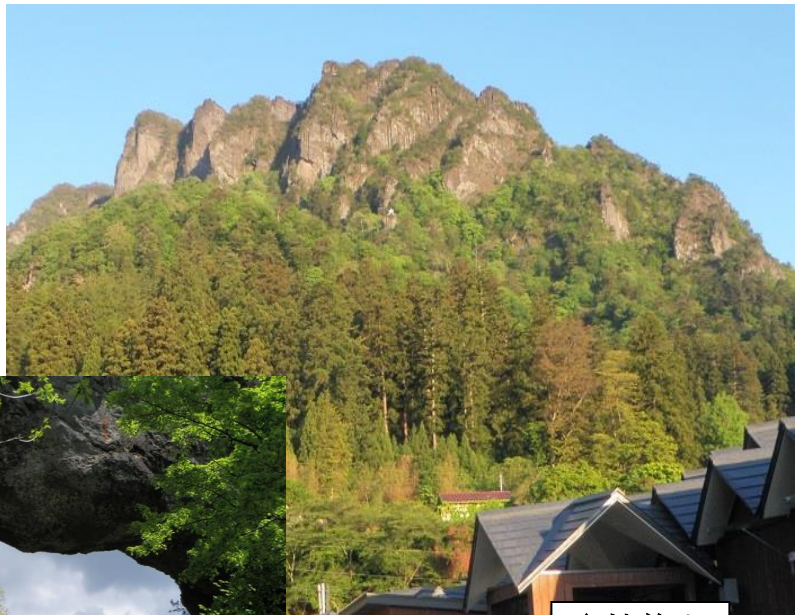
鷹戻し梯子

た。前後がガイドの様で、ツアー登山かな??と思えた。細い尾根ですれ違うのが大変だったが、やっと、私を目撃してもらえてホッとした。ここからも鎖場は続いたが、下りが多くなり鎖の形状がカラビナとの相性が悪くなったので、自己ビレイはしなくなった。

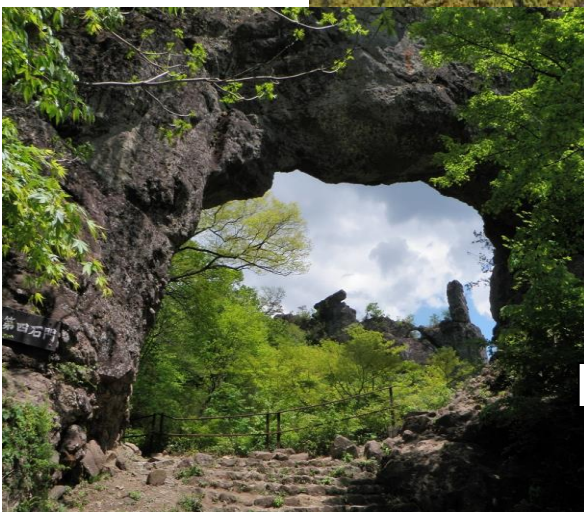
中之岳からは、石門コースに入り、観光客が訪れる石門巡りを楽しんだ。ここにも色々鎖場があったので面白かった。後は、県道を歩いて駐車場に戻り、お礼参りに妙義神社へ再び登って無事終了となった。

今回、登攀用具を準備していた事で単独でも安心して縦走出来た。クライミング経験豊かな人は必要ないかと思うが、念のために携行をお勧めする。また、道標は多々あるが、岩場でふとルートが分からなくなる事があった。登山者が多いと岩場でのすれ違いが危険になるが、全く居ないと、それも不安になった今回の山行でした。

とにかく、15年間、ずっと気になっていた山が終わったので満足です。



↑ 妙義山



第四石門